２０２６年（令和８年）２月６日　金曜日

デーリー東北　１１面　掲載

成年 和歌山に競り勝つ

東洋大コンビ 大久保と中村翔奮起

互いに点を奪い合う息詰まる接戦をものにしたアイスホッケーの成年青森、厚口建次監督は「準決勝の前に、こういうゲームができ、修正点もはっきりした」と前向きに捉えた。

序盤から和歌山の大学生の攻撃に苦しめられ、パックがうまくつながらなかった。互いに無得点で迎えた第2ピリオド直後に同点ゴールを許し、勝ち越しでもお追い付かれた。「最後の失点という、やってはいけないプレーが出てしまった」と反省点を挙げた武田裕大主将（八学大職）。

「シンプルに強いプレーを」・ロッカールームで再確認して臨んだ後半の第3P、第1セットの東洋大コンビが奮起した。大久保翔斗（八戸二中出）が数的有利の状況で勝ち越し点を決め、中村翔瑛（工大一高出）がだめ押しゴールを沈めた。

中村翔は「最初はパスを出そうと逆サイドを見たが、空いたスペースがなかった」と振り、とっさの判断でシュートに切り替え、パックを打ち抜いた。「守りで奪ってから攻撃に移するまでの流れがきれいに決まった」と振り返った。

次戦に向け武田主将は「接戦を乗り越えて気持ちが引き締まった。それぞれのセットが必勝を期すべきだ。勝利が見えてくる」と気合十分だった。

（大西桂介）

【アイスホッケー成年2回戦・青森－和歌山】第3ピリオド12分24秒、青森は中村翔瑛（左）が決め、4－2とする＝三沢アイスアリーナ

【アイスホッケー成年2回戦・青森－和歌山】第3ピリオド、ゴールを守る青森のGK吉田献（右）

猛攻しのぎ１点差死守

ＧＫ吉田 献身的プレー光る

○…我慢の展開が続いた流れの中、成年青森のGK吉田献（北稜中出）の献身的プレーが勝利を呼び込んだ。

第3ピリオド終盤、2点を追う和歌山は6Kを外して6人攻撃に出た。吉田は「シュートを多くもたれることは覚悟していた。パックの正面に立って止めることだけを考えた」。反則で1人欠いた4－6の状況で1失点したものの、気持ちを切り替え、猛攻をしのぎ、1点差を死守した。

武田裕大主将（八学大職）は「最後まで気持ちを切らさず、体を張ってくれた」と感謝。吉田は次戦に向け「きょう以上に難しい試合になると思うが、自分が止めれば勝てる」と言い切った。

▽成年2回戦

青　森　4（2－1　2－1）3　和歌山

▽得点者【青】武尾、武田、大久保、中村翔【和】夏野、佐々木2

【評】青森が粘る和歌山を振り切り、競り勝った。互いに無得点のまま迎えた第2ピリオド（P）、点を取り合う展開でリードを奪ったのは青森。第3Pに大久保、中村翔の連続得点で2点差とし、相手の6人攻撃を1失点で耐え抜いた。

【和歌山】

	反則	得点
FW 長谷川大輝	0	1
FW 中村大義小	0	0
FW 関野翔吾	0	0
FW 佐々木蓮	0	0
DP 樋口大和	0	0
DP 倉	0	0
DP 畑	0	0
GK 田中大和	0	0
GK 中	0	0
計	0	1

【青森】

	反則	得点
FW 武尾大中大新	0	1
FW 堀越雄三吉	0	0
FW 中村翔瑛工大一	0	1
DP 武田裕大主将八学	0	0
DP 内藤大輝	0	0
DP 田中大地	0	0
GK 吉田献北稜中出	0	0
GK 中	0	0
計	0	3

第20回国体スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会スケート・アイスホッケー競技会期が5日から始まった。スピードスケートとアイスホッケーを実施した。同日から始まったスピードは9種目の予選と決勝を行い、成年、少年男女1500㍍の4選手、少年男子3㌔の2選手が決勝へ進出。500㍍では、成年男子と少年女子の3選手が5～8位決定戦（B決勝）に回った。

アイスホッケーは成年の2回戦を行い、青森が和歌山に勝利し、準々決勝へ駒を進めた。少年の青森は準々決勝で神奈川を下し、4強入りした。

第7日の6日は、スピードとアイスホッケーを行う。（熊村晋）

デーリー東北新聞社提供